

笹川記念保健協力財団 奨学金支援

助成番号：2016-

(西暦) 2017 年 3月 14日

公益財団法人 笹川記念保健協力財団

理事長 喜 多 悦 子 殿

2016 年度奨学金支援

完 了 報 告 書

標記について、下記の通り完了報告書を添付し提出いたします。

記

所属機関・職名 札幌市立大学大学院看護学研究科 前期博士課程

氏名 藤井 美南子

2016 年度 奨学金支援 完了報告書

1. 修学計画と達成状況

年間の修学の目標を、「複雑で困難な健康課題を抱えるがん患者へ、包括的かつ個別的な高度看護実践を行える能力を修得すること」とし、本年度は修学計画に基づき下記授業科目を履修し、幅広くがん専門看護師としての活動の基盤となる知識を学修いたしました。

(履修した授業科目)

看護研究法特論、看護倫理学特論、看護管理学特論、看護コンサルテーション特論、看護理論特論、成人看護特論、成人看護学演習、がん看護学演習法Ⅰ、がん看護学・緩和ケア特論、がん看護学・緩和ケア援助論、腫瘍学特論、がん看護学実習Ⅰ、課題研究(2年継続)

これらの授業を通し、がんの疾病の理解や、がん患者の全人的理解と看護、看護理論と実践の統合などについて学びました。また倫理的看護実践を行うための倫理観形成や、高度看護実践者として看護の質を向上するための教育・モデル・相談役割の実際と必要な知識・技術について理解いたしました。

2. がん看護専門看護師として活動するための課題について

がん看護専門看護学実習Ⅰを終了し、がん看護専門看護師の組織での役割について学びました。がん看護専門看護師の6つの役割(実践、相談、教育、調整、倫理調整、研究)を担うために、理論と実践を統合する能力、自己や他者の能力や特徴を理解する能力、そして深い専門性に基づいた多角的な臨床判断の能力など、多くの能力が必要となることを理解いたしました。このような能力開発のためには俯瞰的に問題の事象を取り巻く情報を捉え、科学的根拠を持って検証すること、捉えた事象を理論的枠組みやツールを持って評価し比較すること、それらを統合的に表現することに取り組むことが今後の課題です。今後も実習や学習を通して自己の課題を明確にし、確実に課題を達成していけるよう努力致します。

3. 今後の修学計画

次年度はがん看護学実習Ⅱにて専門看護師の6つの役割の実践実習に取り組み、前述の自己の課題を達成できるよう能力開発に努めます。また、がん看護学演習Ⅱではこれまでに学修した看護理論を用いて困難な課題を抱えたがん患者への看護実践を検討し、より包括的な患者理解を行える力を養うことを目指します。

そして、本年度から継続して取り組んでいる課題研究では、分子標的治療を行う患者の皮膚障害への看護をテーマとし、修士論文を作成し博士前期課程を修了する予定です。この論文では、長期にわたるがんの闘病生活におけるがんサバイバーのQOL向上を目指した看護を検討するとともに、専門看護師としての研究活動の基盤となる技術・知識を修得いたします。

4. 謝辞

2016 年度奨学金支援をいただき、修学に専念することができました。また、多くの学会や勉強会に参加することができ、視野を広げることにつながりました。この 1 年間で学んだことを来年度に活かし、がん看護専門看護師になるために一層研鑽を積んでいきたいと考えております。ご支援いただき、心より感謝申し上げます。